

自ら学び 自ら鍛える

Team 北中

令和2年度 学校報 第23号 令和3年 1月 6日

発行責任者：瑞浪北中学校校長

担 当 者：瑞浪北中学校教頭



<合言葉> クリエイティブ瑞浪北中 2nd year
—学校の特長を確かなものにする年—

「～がい」を感じる時を過ごそう

校 長

令和3年がやってきました。しかし、世の中はぱっとせず、相変わらず、「コロナ、コロナ」でもちきりです。新型コロナウイルスは「終息」どころか、「収束」の様相さえ呈していません。明日、関東の4都県には「緊急事態宣言」が出されるようです。「岐阜県は大丈夫だろう」などと思ったら大間違い。県の感染者も、先日2000人を超えたと思ったら、昨日は98名の感染が判明し、一気に2600人に達するほどになってしまいました。瑞浪市の感染者もいずれは30人に達することでしょう。そんな中、瑞浪市の宝である皆さんをコロナの脅威にさらさないように全力で取り組みたいと思います。

私には、もう一つぱっとしないできごとがあります。昨年から年明けにかけて、わが青春時代を象徴する歌謡曲の作詞者作曲者が、次々に亡くなっていることです。「あの人も亡くなってしまったのか……」と落胆する日々が続きました。命あるものは必ず最期を迎えるとはわかってはいるのですが、その方たちの作った曲を耳にすると、やはり受け入れたくない気持ちが生まれてきてしまいます。

昨日もある方が亡くなりました。福本清三という方です。名前ではわかりませんでしたので、新聞に載っていた写真に目をやるとすぐにわかりました。時代劇の役者をしていました。主役の命を狙う悪役として必ずと言っていいほど出演していた方でした。メイクの効果で、画面に映る顔も「これぞ、悪役」という感じでした。主役を狙う悪役としてのふてぶてしい顔だけが、私の記憶には残っていたのです。

新聞には、彼のことが「5万回斬られた男」という見出しで掲載されていました。私はその言葉に興味を持ちました。一日1回斬られたとして、5万回斬られるまでには約137年かかります。ということは、一日に何度も何度も斬られていたわけで、斬られ役に徹した人生を送ったということの表現だとわかりました。

ネットで彼の名を検索してみると、「5万回斬られた男」という言葉は、中学生の道徳教科書に載っている資料のタイトルであることがわかりました。私はその資料が無性に読みたくなり、資料を探し回りました。北中で使っている道徳教科書には載っていませんので、他社の発行している道徳教科書を見つけ、資料を入手しました。そこには、私の覚えている福本氏が悪役の格好で斬られている懐かしい写真も載っていました。

資料の全文を載せることはできませんので、大筋だけ紹介します。

15歳で米屋に奉公（今でいう就職ですね）に出た福本氏は、ひよんなことから映画会社の撮影所で働くことになりました。初めはエキストラ（出演者として名前が出ない脇役）でしたが、そのうちスタントマンになります。それは主役の代わりに危険なシーンに臨む身代わり役のことです。どんなにひどいけがをしても「やらせてください」と言い続け、危険な演技を進んで引き受けたそうです。

その後、「斬られ役」に抜擢され、主役を引き立てる立場で活躍します。しかし、映るのは斬られるシーンと死に顔ばかり。そんな福本氏に、ある大物俳優のY・K氏が言葉をかけました。その言葉で彼のモチベーションは急上昇。「死に方」に知恵を絞り、体力に任せてやり続けました。

その努力が実り、世界的に有名なハリウッド映画「ラスト・サムライ」への出演へとつながりました。その時の出演シーンも「斬られ役」ならず「撃たれ役」で、見事な「死にざま」をスクリーンに残しました。そして、そのシーンは多くの人々の記憶に焼き付きました。

福本氏はその資料の最後で、読み手に向けて次のように語っています。

「作品がハリウッド映画だろうが日本のテレビドラマだろうが、私には関係ありません。出演時間がわずかだろうが長かろうが関係ありません。セリフがあろうがなかろうが関係ありません。私は斬られ役にこだわり、それに生涯をかけて徹してきました。(中略) 私は字幕にも名前が出ない無名の脇役でいたいのです。そういう人生があり、それに生きがいを感じる人間がいることを知ってください。」

彼はこのメッセージの中で、「生きがい」という言葉を使っています。一生の仕事を終えようとしている人、また、一生をかけて今の職をやり切ろうと決心している人には身に染みる言葉でしょう。中学生の皆さんにとっては、まだ実感できない言葉かもしれません。

しかし、福本氏が「斬られ役」という脇役中の脇役に徹し、一生を終えた生き方は皆さんにもぜひ考えてもらいたい、それを今の自分にあてはめて考えてもらいたいと私は思います。「生きがい」まではいなくても、「やりがい」「学びがい」は今の皆さんにも十分感じられるものです。面倒くさいこと、地味なこと、敬遠したくなるようなことの中に、あなたの「～がい」が見つかるのかもしれません。

一人一役に取り組んでいる皆さんです。その中に、「やりがい」は十分感じられるはずです。毎日取り組んでいる学習の中に、「学びがい」は隠れているはずです。「～がい」は「どんな役についたか」「何点とったか」「どんな学校に進学したか」では測れません。取り組む者の心もちが決めるものです。令和3年度はすっきりしない状況からスタートしただけに、生徒の皆さんには、「～がい」を感じる時(一年)を過ごしてもらいたいと心から願っています。

12/22 研究授業



1 B 英語

実に反応のよい1 Bの生徒たち。とても楽しそうに授業に取り組んでいました。



2 AB 男子 体育

跳び箱授業でした。仲間同士で助言し合い、元気いっぱいに取り組んでいました。

コロナ禍の中、万全の感染対策をした上での研究授業となりました。参観者は最小限にとどめ、互いに感覚をとっての参観をお願いしました。

今回は1 Bの英語と2 AB男子体育の授業を公開しました。1 Bの生徒と2 ABの男子生徒は授業中も元気いっぱい！仲間同士で関わり合いながら、楽しそうに授業に取り組んでいました。

一生懸命に授業に取り組めたという生徒たちの実感は、授業後は「できた・分かった」という喜びに変わることでしょう。授業を、そして仲間を大切にする北中生の姿、存分に魅せることができました。

12/24 V期のまとめ集会



モニターを食い入るように見つめる2 Aの生徒たち

V期のまとめ集会も、各学級でモニターを使いながらの集会となりました。

左は、集会に参加する2 A生徒たちの様子です。どの生徒も食い入るようにモニターを見つめ、執行部や委員長、各学年の級長の話真剣に耳を傾けていました。

今年度はコロナの影響で前期・後期の二期制をとっていますが、通常は1月から3月までを3学期とします。そして、2年生にとっての3学期は、よく「3年生の0学期」と言われます。言い換えれば「最高学年の0学期」です。この日の2年生の姿からは、そんな、「最高学年」になる自覚がにじみ出ていました。